



# news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2014年10月29日

報道関係各位

## 第五回 山のがっこう

～みずから学ぶ、未来へつなぐ～サイエンスフィールド白旗山

### 「天然水から始まる水循環研究教室」を開催

市内高校生に、最先端の科学を使った環境教育

北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社:札幌市清田区 代表取締役社長:佐々木康行)は、2014年11月1日、北海道大学大学院環境科学院との協働で行う事業「山のがっこう」の一環として、札幌市内の高校生約20名を対象に、水の安定同位体比分析などの高度な研究から、地下水の恩恵を受け続ける為の森林保全の重要性などを伝える体験型環境教育イベントを開催致します。



#### ■企画名 「水の安定同位体比分析における最先端の科学～天然水から始まる水循環研究～」

##### 【実施内容】

水循環を知るための指標の一つである水の安定同位体分析を用いた講義、実験を実施し、また分析機器の見学や水の保全に関するディスカッションを行う事で、身近な水に対する理解を深める事を目的とする。

- ・開催日時 : 2014年11月1日(土) 13:00～17:00
- ・開催場所 : 北海道大学大学院環境科学院 D-201 教室



※講義イメージ



※分析機器イメージ

当社は、これからも地域のお役に立てる企業を目指して、安全・安心に係る応援事業、環境保全事業、未来を担う子どもたちを育む事業などを、継続して推進してまいります。

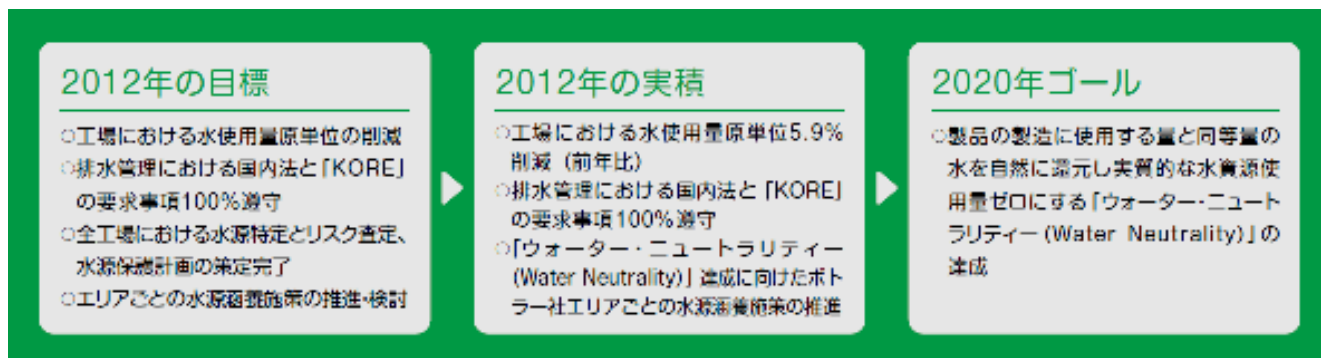
＜本件に関するお問い合わせ先＞

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部 担当:宇井  
TEL 011-888-2091

## 【参考】

### ■コカ・コーラシステムの水への取組

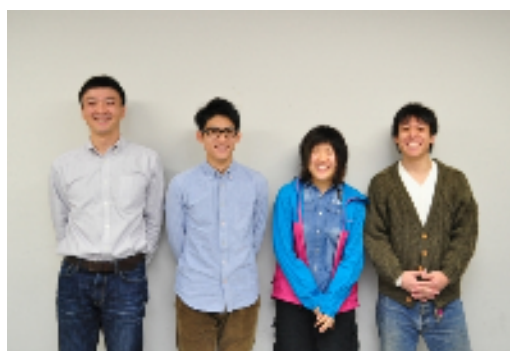
コカ・コーラシステムでは、「2020年までに持続的な水質資源管理のグローバルリーダーになる」という世界共通の目標を掲げ、製造過程における水使用量を削減すること(Reduce)、製造過程で使用した水を適切に処理し自然環境に戻すこと(Recycle)、水源涵養で水資源を“補充”すること(Replenish)の3つの要素からなる水資源保護プロジェクト「ウォーター・ステewardシップ(Water Stewardship)」を推進しています。



### ■「山のがっこう」とは

当社は、北海道大学大学院環境科学院(以下、環境科学院)と、北海道における環境保全・地域社会の発展に寄与することを目的として連携・協力協定(以下、同協定)を2013年7月29日に締結しており、同協定に基づく活動を継続することで、当社事業活動の継続に重要な位置付けである水源の札幌市清田区白旗山をはじめとする北海道の自然を、教育・研究や人的交流・情報交流によって保全し、次世代へつなげていきます。

同協定にもとづく具体的な活動として、「山のがっこう」を同年8月に開校しました。この「山のがっこう」は当社創立50周年を記念して実施するもので、水源である白旗山をフィールドとして、水を育む森の大切さを地域の人に伝える、イベントを中心としたコンテンツを実施しております。環境科学院と連携することで、伝える側と伝えられる側双方の教育の一環につなげ、イベントの検討にあたってはまちづくりパートナー協定を結ぶ札幌市や、白旗山を地元とする清田区、並びに清田小学校など「産・学・官・民」の協働を実現しています。



写真左：北海道大学大学院環境科学院 嶋津学院長、北海道コカ・コーラボトリング(株) 矢吹会長

写真右：根岸准教授と環境科学院の学生

## ■「山のがっこう～みずからまなぶ、みらいへつなぐ～サイエンスフィールド白旗山」 活動実績

### 【第一回目イベント「行って見て聞いてみナイト！」】

2013年8月、白旗山ふれあいセンターにて清田小学校をはじめとする親子約30名が参加し、昼と夜の森の違いを五感で感じるイベントを実施。水の湧くポイントや川などで水の温度を測り、どうして場所によって温度が違うのか？という疑問を解決したり、昼の森ではどんな虫がいるのかを学びました。昼に学んだ事を、夜の森で再び行くと、色々な違いがある事を学びました。また、コウモリ探知機を使ってコウモリを探す実験も行いました。



### 【第二回目イベント「森の身体測定」】

2013年9月、白旗山有明地区にて子ども達約40名が参加し、植樹体験を交えた植樹の必要性、山の水源涵養機能に対する知識を深めるイベントを実施。当社社員、環境科学院の先生や学生、札幌ふれあいの森友の会様も含め総勢約80名のイベントとなりました。

テーマ通り、植樹活動を行った場所と、その近くの森の木々の高さや太さ、樹冠幅などを測定し、データを基に3Dで再現された森を見ながら広葉樹と針葉樹の違いを観察しました。広葉樹の森には腐葉土や動物の影響から地面が柔らかくなり、水の浸透能が高まる事から、水源涵養機能を高める役割がある事も学びました



### 【第三回目イベント「美味しいお水ができるまで」】

2014年1月、美味しい水が自然の水循環の中で生まれる事を学ぶ為、北海道大学大学院内で参加者自身が自然界を循環する「水」そのものになり建物内を歩き回って想像したり、環境科学院の学生手作りによる「水の蒸留装置」を使って、蒸留やパックテストを使った水質検査を行う等、大学施設内ならではの学術的な要素を織り交ぜた環境教育イベントを実施



以上